

平成 30 年度『長崎県総おもてなし運動推進会議』 総会 次第

○日 時：平成 31 年 3 月 5 日（火）
13：30 ～ 15：30

○会 場：長崎県庁
1 階 「大会議室 B・C」

1. 開 会 13：30

2. 会長挨拶

3. 議 事

①報告事項

- ・平成 30 年度 取組状況の報告について

②議 案

第 1 号議案

- ・「長崎県総おもてなし運動」の「長崎県観光連盟事業」への統合に伴う「推進会議」の発展的解消（案）について

③その他

- ・今後の「長崎県総おもてなし運動の在り方」についての意見交換

14：10

4. おもてなしセミナー 14：15

講 師： NPO 法人 バリアフリーネットワーク会議

法人代表 おやかわ 親川 おさむ 修 氏

（琉球大学 観光産業科学部観光科学科 非常勤講師）

演 題： 「バリアフリーな『おもてなし』
～超高齢化社会を生き抜く観光地とは～

5. 閉 会 15：30

〈第1号議案〉

・「長崎県総おもてなし運動」の「長崎県観光連盟事業」への統合に伴う、「推進会議」の発展的解消（案）について

1. 「長崎県総おもてなし運動」の見直し経緯

- ①本県を訪れる観光客を温かくお迎えする「長崎県総おもてなし運動」は、平成21年4月に、「長崎国体」（H26年10月開催）に向けて取組を開始した。
- ②その後、平成24年3月に、民間主導のおもてなしを推進するため、「長崎県総おもてなし運動推進会議（以降「推進会議」という）」を設立した。
- ③平成28年4月には、「民間目線でのおもてなし取組をさらに推進してもらうため」、長崎県観光連盟（以降「観光連盟」という）へ事務局が移管した。
- ④「ワッペン」着用や「ステッカー」の貼付など、「おもてなし」に対する意識は着実に高まっているが、アンケートの結果では、県民運動としては、まだまだ定着していない。
- ⑤事務局移管後の「長崎県総おもてなし運動」は、長崎県の補助金（3年間の逡減予算方式）で事業を運営してきたが、平成31年3月末で、まる3か年となる。



- ◎「おもてなし運動」の取組を開始して10年が経過した今、予算枠が減少する中、県民運動としていかに定着化させていくべきかなど、推進母体運営の在り方についても再検討を行う時期であると判断する。

2. 「長崎県総おもてなし運動」の見直し・検討課題

- ①「おもてなし運動」は、キャンペーン事業ではなく、県民運動としてまた、特に、観光業界の根幹として推進していくべき継続的事業である。
- ②「推進会議」総会での報告・承認事項は、再度、観光連盟の総会でも報告・承認を得ており、事務作業・事務処理が重複している。
- ③「推進会議」は、「意見収集の組織」としては良いが、県民運動としての推進・定着させる実践母体・リーダー役としては、組織力が弱い。
- ④観光客との「コミュニケーション・ふれあい」、観光客を「笑顔にさせる対応」を更に強化し、「おもてなし運動」を県民運動として定着させる推進母体・リーダー役としては、観光客の心をしっかり掴んでいる観光関係事業者の組織（観光連盟など）が、一番ふさわしい。



- ◎つまり、「おもてなし運動」の取組を、観光連盟の事業と一体化すると、観光振興事

業者（観光関係事業者、行政機関など）との更なる連携強化ができ、「おもてなし運動」が県民運動として推進・定着化するには、一番効果的である。

3. 今後の「長崎県総おもてなし運動」の在り方（案）

- ①おもてなし運動を観光連盟の事業とする。
- ②観光連盟の予算の中で運営し、また、事業は、観光連盟の一部門に分掌する。
- ③おもてなし運動の活動報告・事業計画については、観光連盟の理事会・総会時に、観光連盟の中の事業報告・事業計画として審議するため、「推進会議」単独での総会の開催は、廃止する。
- ④“長崎県総おもてなし運動”“おもてなし運動ワーキング会議”の呼称は、引き続き使用し、活動も従来通りに行う。
- ⑤「おもてなし運動ワーキング会議」会員の、観光連盟の総会への「参加」及び「発言権」「議決権の有無」については、観光連盟の定款との関係もあり、観光連盟の理事会・総会の決議に従う。



《参考：観光連盟定款第12条》

第12条：総会は、すべての正会員をもって構成する。

◎以上の内容により、

平成31年3月5日（火）開催の「推進会議」総会において、「長崎県総おもてなし運動」を「長崎県観光連盟事業」へ統合するという。そして、その結果、本「推進会議」を発展的に解消することの議決をお願いするもの。

但し、今回の「推進会議」の発展的解消・要望案が、長崎県観光連盟の理事会および総会で、承認された時をもって、『長崎県総おもてなし運動推進会議』の発展的解消日とする。

以上

4. おもてなしセミナー

◎講師： NPO法人 バリアフリーネットワーク会議

おやかわ おさむ
法人代表 親川 修 氏

(琉球大学 観光産業科学部観光科学科 非常勤講師)

◎演題：「バリアフリーな『おもてなし』
～超高齢化社会を生き抜く観光地とは～



◎講師プロフィール

【口癖！】

- ・難しく考えないBF・UD すべては、気づきから始まる。
- ・安心と安全は平等に「逃げるバリアフリー（逃げバリ）」をテーマに沖縄から発信中。
- ・普段は、障害児童療育に携わり子どもたちから日々学んでいます。
- ・堅い話・難しい話が全くできません。いつも「一歩前へ」を口癖に全国を飛び回っています。
- ・昭和38年7月生まれ。出身地は沖縄県沖縄市。

【主な役職】

- ・NPO法人バリアフリーネットワーク会議 代表
- ・公立大学法人名桜大学 国際学群 観光産業教育研究学系 専任講師
- ・国立大学法人琉球大学 観光産業科学部観光科学科 非常勤講師
- ・沖縄県障がい者スポーツ協会 理事（競技強化・合宿誘致担当）
- ・日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク（神戸）副理事長
- ・日本バリアフリー観光推進機構（東京）監査役

【賞 罰】

- ・平成26年度 「国土交通省バリアフリー化推進功労者」大臣表彰
- ・平成24年度 那覇市観光功労者表彰 団体賞受賞
- ・平成22年度 「災害時における観光者、外国人、障害者の避難誘導方法に関する調査研究」として神奈川県知事賞
- ・平成20年度 沖縄県福祉のまちづくり推進功労表彰 県知事賞受賞

【活 動】

- ・障がい児童施設・障がい者施設7施設
- ・那覇空港しょうがい者・こうれい者観光案内所
- ・那覇国際通りしょうがい者・こうれい者観光案内所を運営
- ・沖縄県観光情報センター しょうがい者・こうれい者観光案内所

【その他】

- ・観光庁ユニバーサルツーリズムの普及・促進に関する検討会議 委員
- ・内閣府沖縄総合事務局沖縄地方バリアフリー有識者会議 委員 など 以上